

介護老人保健施設オアシス21

症 例 概 要 入所者： 男性 90代後半 要介護度 1

病名： 脱水症 腰椎圧迫骨折後 混合性認知症 右胸水

経過： 令和3年5月 時期不明だが徐々に食事摂取できなくなり、体動も困難となったとH病院を受診し、著明な脱水にて入院となる。 補液1,500?/日施行し、食事摂取出来るようになり補液中止。オムツ排泄から、Pトイレ自立となり退院可能となるが、自宅では妻は介護を担えず娘も腰痛あり、令和3年8月当施設へリハビリ入所となる。

内 容

入所当初は身長約170cm、体重40Kg前半、BMI15と低体重であった。義歯が合わず食事はST評価で全かゆ、副食ミキサー、捕食として1日3回の高カロリーゼリーを提供。体力なく食事以外は臥床対応で過ごす事が多く、フレイル状態であった。

入所後、新しく義歯を作成した事で食事への意欲も高まってきたが嚥下機能が低下しミキサー食のみで経過していた。

ある日 ご本人の口から「アンパンが食べたいなあ」「あんこ食べて太りたい」と話されるのを聞いた介護職員がなんとか希望を叶えたいと考え「パンはむずかしいが中のアンなら食べられないか?」と看護師や栄養管理士などチームで対策を検討し、ご本人も参加する「男の料理レク ようかん作り」を企画開催。甘い匂いの立ち込めるなか、男性利用者さん4名がようかん作りに挑戦。張りきって作ったようかんの味に大満足。「美味しいものを食べると幸せな気持ちになりますね」とブログを見たご家族から「コロナで会えないけど楽しそうで安心しました」とメールが届けられた。

食事量が増え令和3年12月 体重は4Kg増、ようかん作りをきっかけにクリスマスや餅つきなど行事に参加。現在、法人内にある「サービス付き高齢者住宅花びりか」の入所をめざし生活リハビリに更に取り組み、車椅子から歩行器歩行が可能になりました。嚥下機能低下であっても、フレイル対策にて笑顔があふれ生き生きとした生活を取りもどした貴重な事例にてご報告致します。